

## H27-B-2孔で確認された破砕部 (1/5)

- H27-B-2孔で確認された破砕部について、薄片観察による断層岩区分を実施した。
- 薄片観察の結果、肉眼観察に基づく評価から見直した箇所は、深度68.02-68.06mの非モデル化破砕部、深度85.58-85.76mの非モデル化破砕部、深度91.69-91.76mの非モデル化破砕部及び深度120.63-120.65mの非モデル化破砕部であり、カタクレーサイトのみからなる破砕部と判断した。
- また、追加した文献も踏まえて実施した薄片観察により従前の薄片観察に基づく評価から見直した箇所は、深度35.36-35.46mの非モデル化破砕部、深度48.08-48.12mの非モデル化破砕部である。
- 156頁以降に薄片観察結果を示す。
- H27-B-2孔には、K断層に類似するような、断層ガウジを伴う逆断層センス卓越の破砕部は認められない。

H27-B-2孔で確認された破砕部 (1/5)

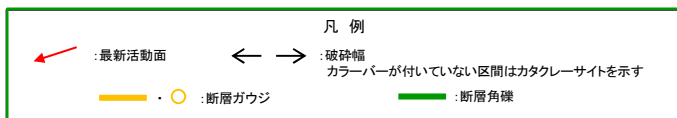
破砕部 番号	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm) ※1	断層ガウジ・ 断層角礫の 有無	断層ガウジ・ 断層角礫の 幅 (cm) ※2	最新活動面		条線 方向	変位センス		破砕帯名	写真
	上端深度 (m)	下端深度 (m)						明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平		
①	31.15	31.66	N7E	78W	43.1	有	1.0	無	-	80L	正	-	非モデル化	31 → 32
②	34.37	34.48	N18E	46W	10.8	有	0.6	無	-	0	-	左	非モデル化	34 → 35
③	35.36	35.46	N69E	79N	8.7	無	-	-	-	10R	-	右	非モデル化	35 → 36
④	35.68	35.73	N7W	52W	4.1	有	0.2	無	-	70R	正	-	非モデル化	35 → 36

※1: 破砕幅は破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。  
※2: 断層ガウジ・断層角礫の幅は肉眼観察に基づく。

□: 薄片観察結果に基づき  
判断した箇所

□: 第833回審査会合までに実施した追加観察結果、データの追加  
(断層岩区分においては肉眼観察に基づく評価から見直した箇所)

□: 今回、追加した文献も踏まえて実施した追加観察により従前の薄片観察に基づく評価から見直した箇所



—: データが得られていないもの。  
明瞭なせん断構造・変形構造については、断層ガウジ・断層角礫を伴わないもの。  
平滑さについては、断層ガウジ・断層角礫を伴わないもの又は明瞭なせん断構造・変形構造が無しのもの。

「非モデル化」とは、近傍ボーリングに連続しないと判断された破砕部を示す。

# H27-B-2孔で確認された破砕部 (2/5)

H27-B-2孔で確認された破砕部 (2/5)

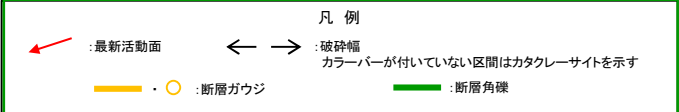
破砕部 番号	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・ 断層角礫の 有無	断層ガウジ・ 断層角礫の 幅 (cm)	最新活動面 明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ	条線 方向	変位センス		破砕帯名	写 真	
	上端深度 (m)	下端深度 (m)									鉛直	水平			
⑤	35.92	35.95	N4E	86E	2.3	無	-	-	-	50L	逆	左	非モデル化	35	36
⑥	48.08	48.12	N38W	15NE	3.1	無	-	-	-	0	-	右	非モデル化	48	49
⑦	54.72	54.77	N8W	79W	4.2	有	0.3	無	-	0	-	左	非モデル化	54	55
⑧	60.26	60.69	N18E	77W	36.5	無	-	-	-	60R	逆	右	非モデル化	60	61
⑨	61.29	61.69	N8E	89W	28.8	有	1.5	有	平滑	90	正	-	D-1	61	62

  : 薄片観察結果に基づき  
判断した箇所

  : 第833回審査会合までに実施した追加観察結果、データの追加  
(断層岩区分においては肉眼観察に基づく評価から見直した箇所)

  : 今回、追加した文献も踏まえて実施した追加観察により従前の薄片観察に基づく評価から見直した箇所

※1: 破砕幅は破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。  
※2: 断層ガウジ・断層角礫の幅は肉眼観察に基づく。



- : データが得られていないもの。  
明瞭なせん断構造・変形構造については、断層ガウジ・断層角礫を伴わないもの。  
平滑さについては、断層ガウジ・断層角礫を伴わないもの又は明瞭なせん断構造・変形構造が無しのもの。

「非モデル化」とは、近傍ボーリングに連続しないと判断された破砕部を示す。

# H27-B-2孔で確認された破砕部 (3/5)

## H27-B-2孔で確認された破砕部 (3/5)

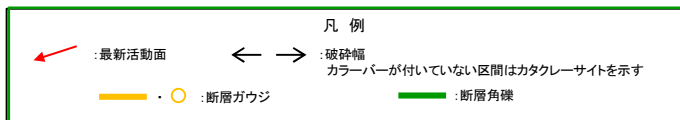
破砕部 番号	破砕帯範囲 (m)		走向	傾斜	破砕幅 (cm) ※1	断層ガウジ・ 断層角礫 の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の 幅 (cm) ※2	最新活動面		条線 方向	変位センス		破砕帯名	写 真
	上端深度	下端深度						明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平		
⑩	63.75	63.85	N47W	24E	8.0	無	-	-	-	-	-	-	非モデル化	
⑪	68.02	68.06	N23E	74W	3.5	無	-	-	-	90	正	-	非モデル化	
⑫	85.58	85.76	N15E	82W	14.4	無	-	-	-	60L	正	右	非モデル化	
⑬	88.38	88.43	N26E	84E	3.9	有	0.5	無	-	30L	正	右	D-41	
⑭	88.88	88.94	N35E	72W	5.4	有	2.0	有	非平滑	25L	正	右	f-b-2-14	

  : 薄片観察結果に基づき  
判断した箇所

  : 第833回審査会合までに実施した追加観察結果, データの追加  
(断層岩区分においては肉眼観察に基づく評価から見直した箇所)

※1: 破砕幅は破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。  
※2: 断層ガウジ・断層角礫の幅は肉眼観察に基づく。

  : 今回, 追加した文献も踏まえて実施した追加観察により従前の薄片観察に基づく評価から見直した箇所



- : データが得られていないもの。  
明瞭なせん断構造・変形構造については, 断層ガウジ・断層角礫を伴わないもの。  
平滑さについては, 断層ガウジ・断層角礫を伴わないもの又は明瞭なせん断構造・変形構造が無しのもの。

「非モデル化」とは, 近傍ボーリングに連続しないと判断された破砕部を示す。

# H27-B-2孔で確認された破砕部 (4/5)

H27-B-2孔で確認された破砕部 (4/5)

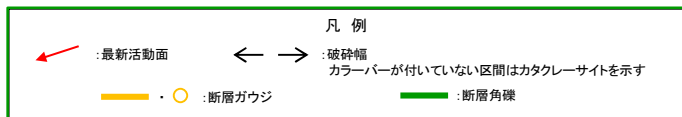
破砕部 番号	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・ 断層角礫 の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の 幅 (cm)	最新活動面 明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ	条線 方向	変位センス		破砕帯名	写 真
	上端深度 (m)	下端深度 (m)									鉛直	水平		
⑮	91.69	91.76	N5W	82W	※1 5.7	無	※2 -	-	-	30R	逆	右	非モデル化	91 92
⑯	120.63	120.65	N34E	77NW	1.7	無	-	-	-	30L	逆	左	非モデル化	120 121
⑰	127.41	127.48	N18E	82E	5.6	無	-	-	-	20L	-	右	D-42	127 128
⑱	128.82	128.97	N28E	81E	12.1	有	0.5	無	-	20R	-	右	D-44	128 129
⑲	133.75	133.92	N1E	72E	15.4	有	0.1	無	-	21L	-	-	非モデル化	133 134

  : 薄片観察結果に基づき  
判断した箇所

  : 第833回審査会合までに実施した追加観察結果, データの追加  
(断層岩区分においては肉眼観察に基づく評価から見直した箇所)

  : 今回, 追加した文献も踏まえて実施した追加観察により従前の薄片観察に基づく評価から見直した箇所

※1: 破砕幅は破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。  
※2: 断層ガウジ・断層角礫の幅は肉眼観察に基づく。



- : データが得られていないもの。  
明瞭なせん断構造・変形構造については, 断層ガウジ・断層角礫を伴わないもの。  
平滑さについては, 断層ガウジ・断層角礫を伴わないもの又は明瞭なせん断構造・変形構造が無しのもの。

「非モデル化」とは, 近傍ボーリングに連続しないと判断された破砕部を示す。

# H27-B-2孔で確認された破砕部 (5/5)

H27-B-2孔で確認された破砕部 (5/5)

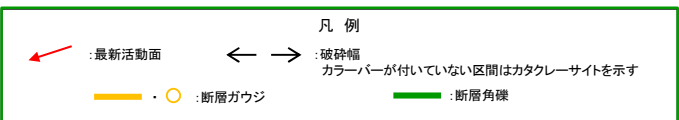
破砕部 番号	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm) ※1	断層ガウジ・ 断層角礫の 有無	断層ガウジ・ 断層角礫の 幅 (cm) ※2	最新活動面		条線 方向	変位センス		破砕帯名	写 真	
	上端深度 (m)	下端深度 (m)						明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平			
⑳	134.15	134.23	N16E	67E	7.4	有	2.0	有	非平滑	85L	正	-	f-b-2-20	134	135
㉑	152.10	152.15	N28E	84E	4.0	有	0.1	無	-	30L	正	右	f-b-2-21	152	153
㉒	154.53	154.71	N42E	75E	15.7	有	0.5	有	非平滑	75R	正	-	f-b-2-22	154	155

※1: 破砕幅は破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。  
※2: 断層ガウジ・断層角礫の幅は肉眼観察に基づく。

  : 薄片観察結果に基づき  
判断した箇所

  : 第833回審査会合までに実施した追加観察結果, データの追加  
(断層岩区分においては肉眼観察に基づく評価から見直した箇所)

  : 今回, 追加した文献も踏まえて実施した追加観察により従前の薄片観察に基づく評価から見直した箇所

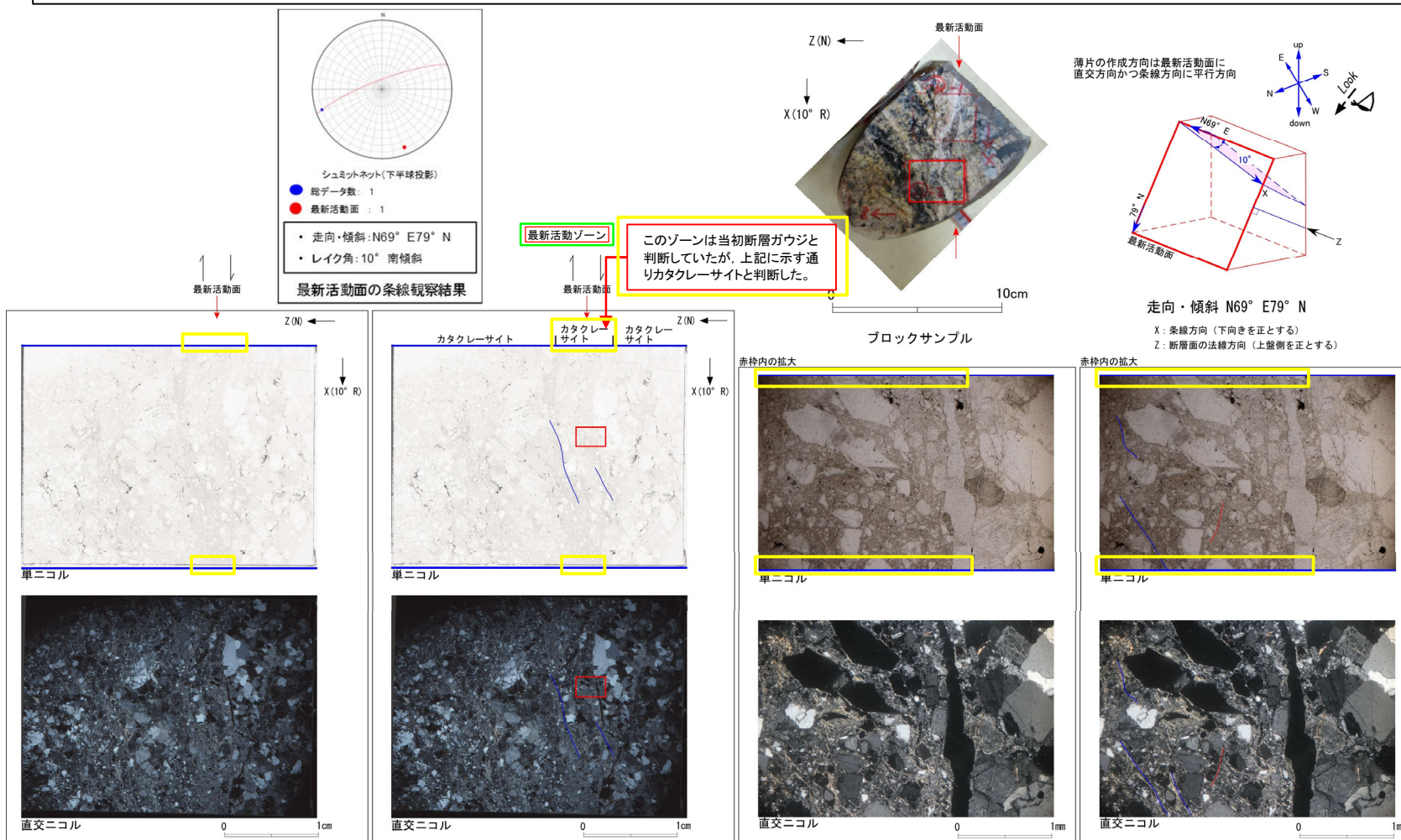


- : データが得られていないもの。  
 明瞭なせん断構造・変形構造については, 断層ガウジ・断層角礫を伴わないもの。  
 平滑さについては, 断層ガウジ・断層角礫を伴わないもの又は明瞭なせん断構造・変形構造が無しのもの。

「非モデル化」とは, 近傍ボーリングに連続しないと判断された破砕部を示す。

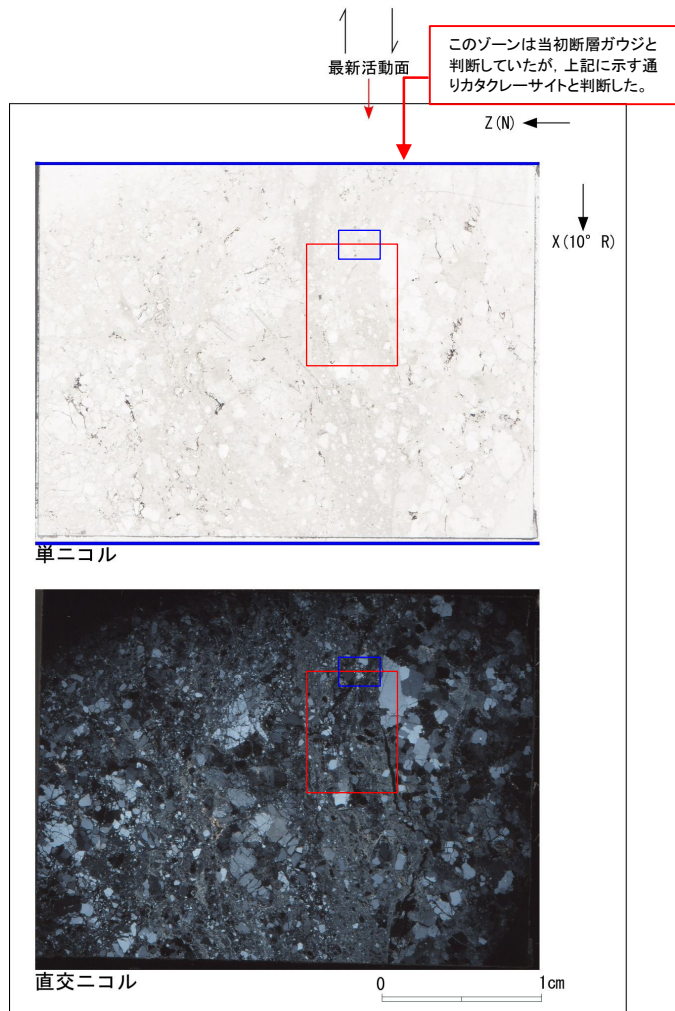
# H27-B-2 深度35.36~35.46m 非モデル化破砕部 (1/2)

- ・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度35.40m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
- ・断層岩区分については、単ニコルで明瞭に区別できるゾーンのうち、最新活動ゾーンはより細粒であり、局所的ではあるが粘土鉱物が若干認められることから、断層ガウジと判断していた。(第833回 机上配布資料1)
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
  - 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
  - 多様な粒径の岩片が多く認められる。
  - 角ばった岩片が多い。
  - ジグソー状の角礫群が認められる。

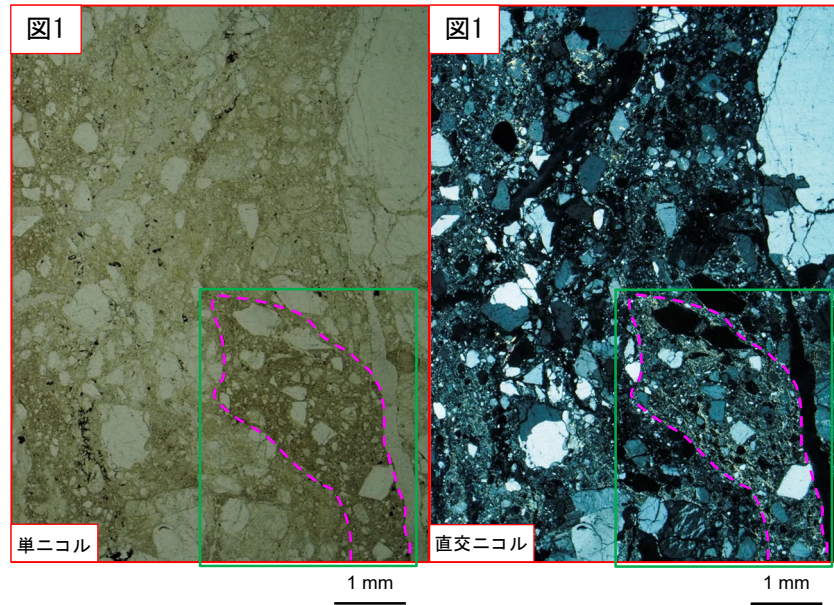


## H27-B-2 深度35.36~35.46m 非モデル化破碎部(2/2)

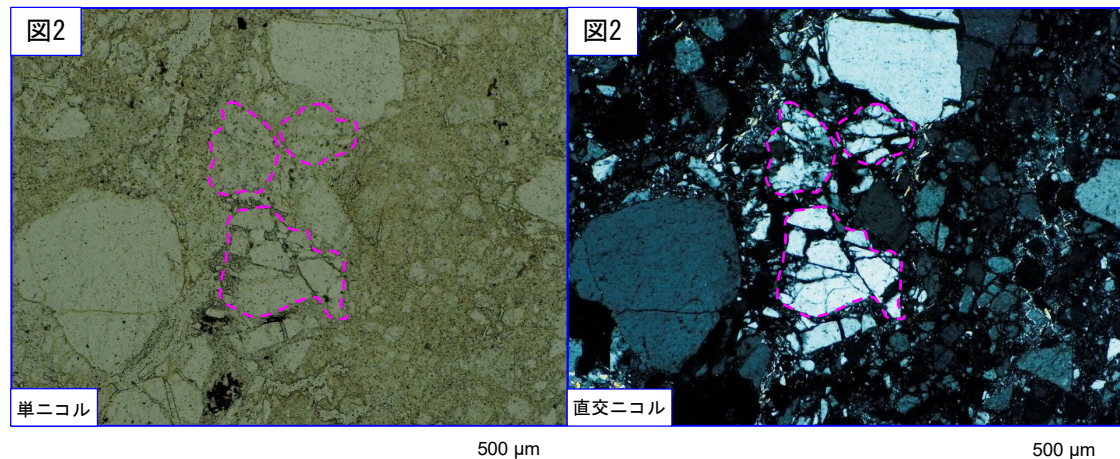
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
  - 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。(図1)
  - 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
  - 角ばった岩片が多い。(図2)
  - ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



このゾーンは当初断層ガウジと判断していたが、上記に示す通りカタクレーサイトと判断した。



破線は粘土状部の分布範囲を示す。

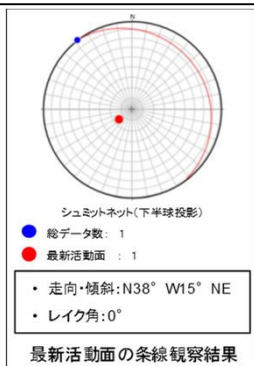


破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

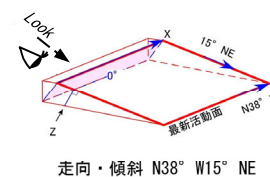
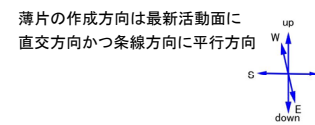
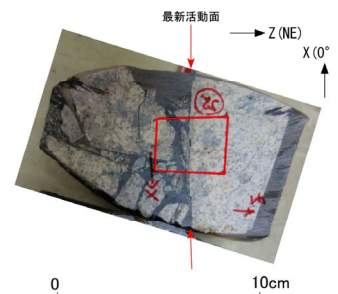
- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト

# H27-B-2 深度48.08~48.12m 非モデル化破碎部 (1/3)

- ・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度48.12m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
- ・断層岩区分については、カタクレーサイトの左端は全体的に不透明鉱物に汚染されており、状況を判断できないものの、全景写真上端のカタクレーサイトの左端には、粘土鉱物を伴う部分が残っていることから、断層ガウジと判断した。(第833回 机上配布資料1)
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
  - 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
  - 岩片の粒径は漸移的に変化する。
  - 多様な粒径の岩片が多く認められる。
  - 角ばった岩片が多い。

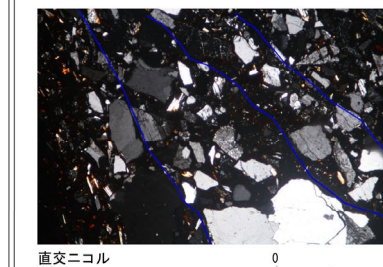
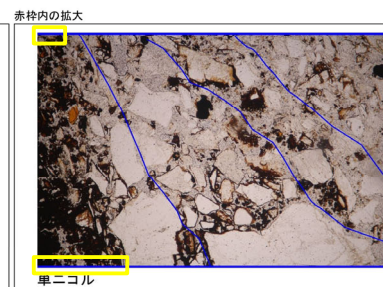
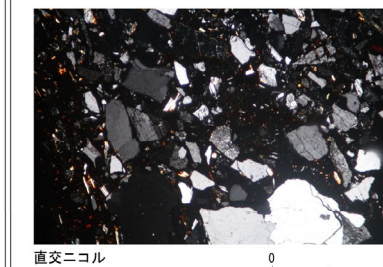
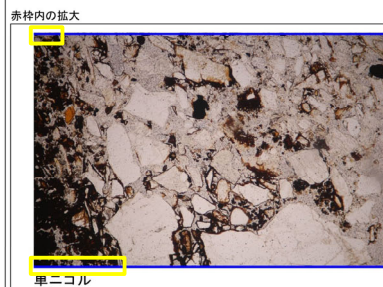
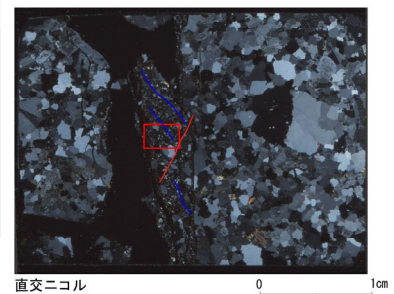
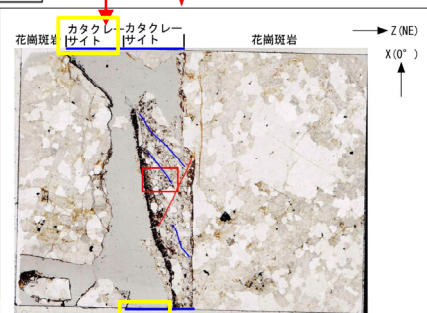
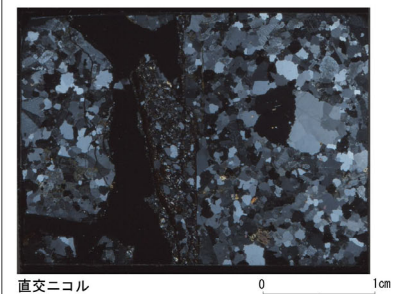
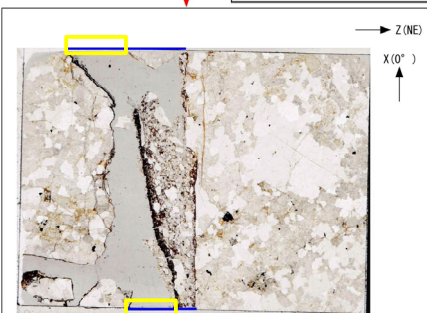


このゾーンは当初断層ガウジと判断していたが、上記に示す通りカタクレーサイトと判断した。



X: 条線方向(北向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

※切断面に記載されているX方向は誤り  
ブロックサンプル



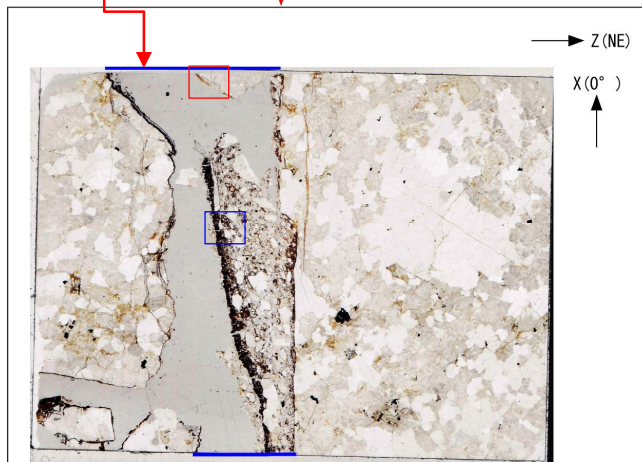
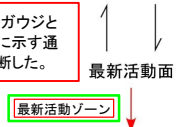
- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面



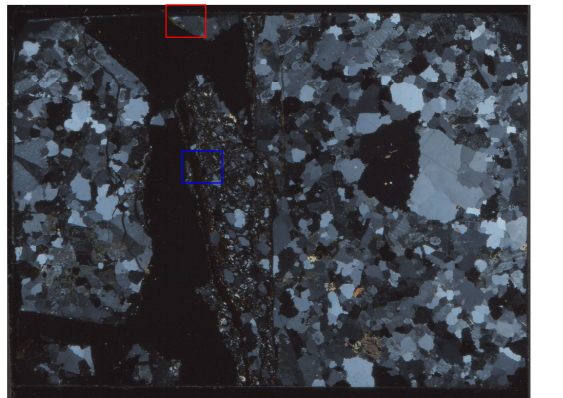
## H27-B-2 深度48.08~48.12m 非モデル化破碎部(2/3)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
  - 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。(図1)
  - 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
  - 角ばった岩片が多い。(図2)

このゾーンは当初断層ガウジと判断していたが、上記に示す通りカタクレーサイトと判断した。

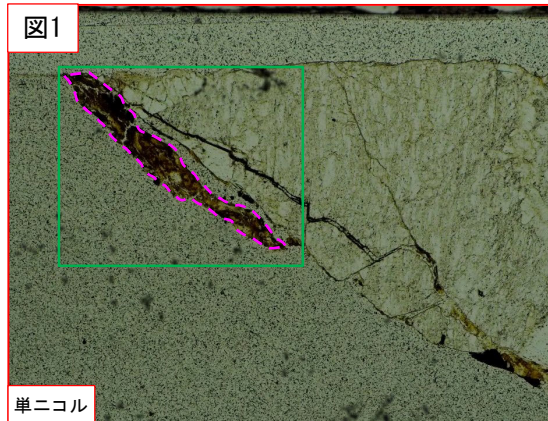


単ニコル

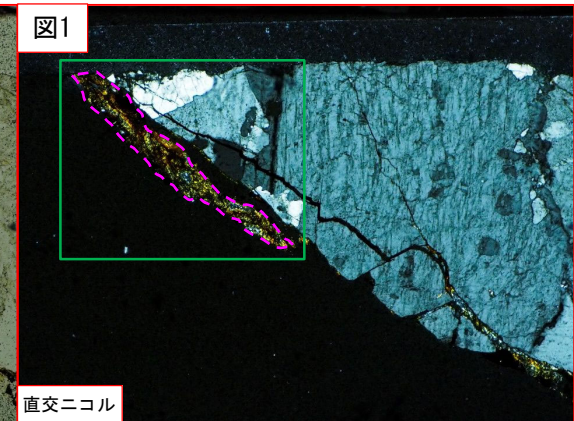


直交ニコル

0 1cm



単ニコル

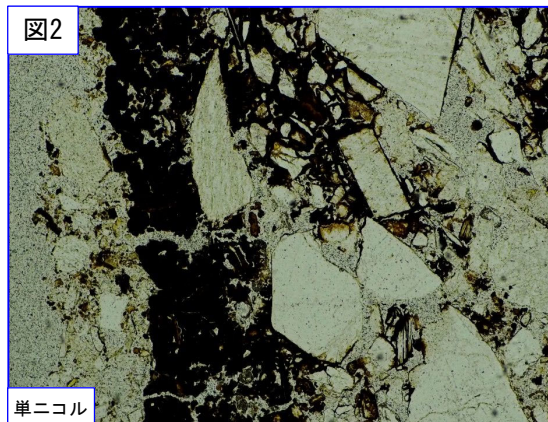


直交ニコル

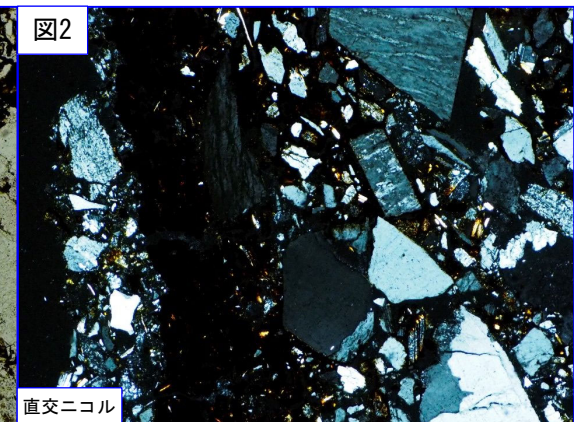
500 μm

500 μm

破線は粘土状部の分布範囲を示す。



単ニコル



直交ニコル

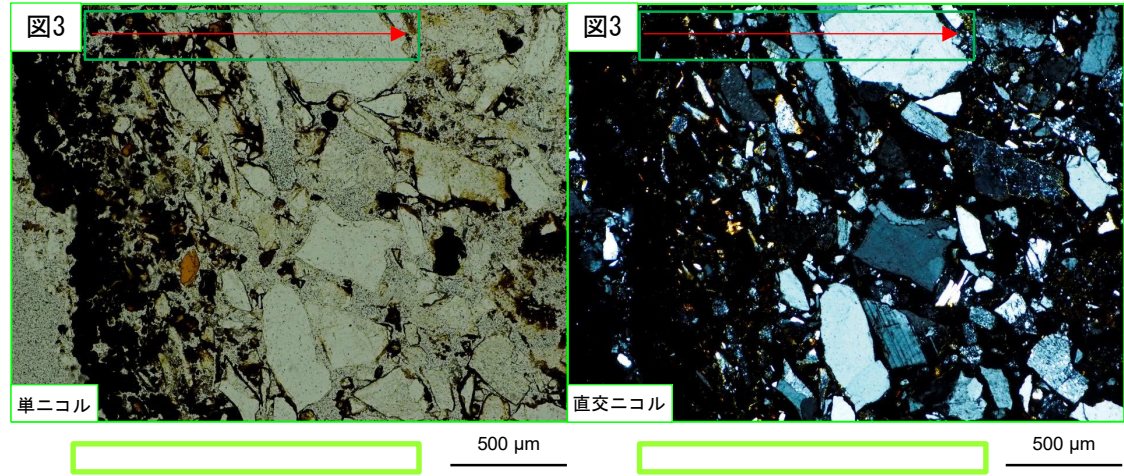
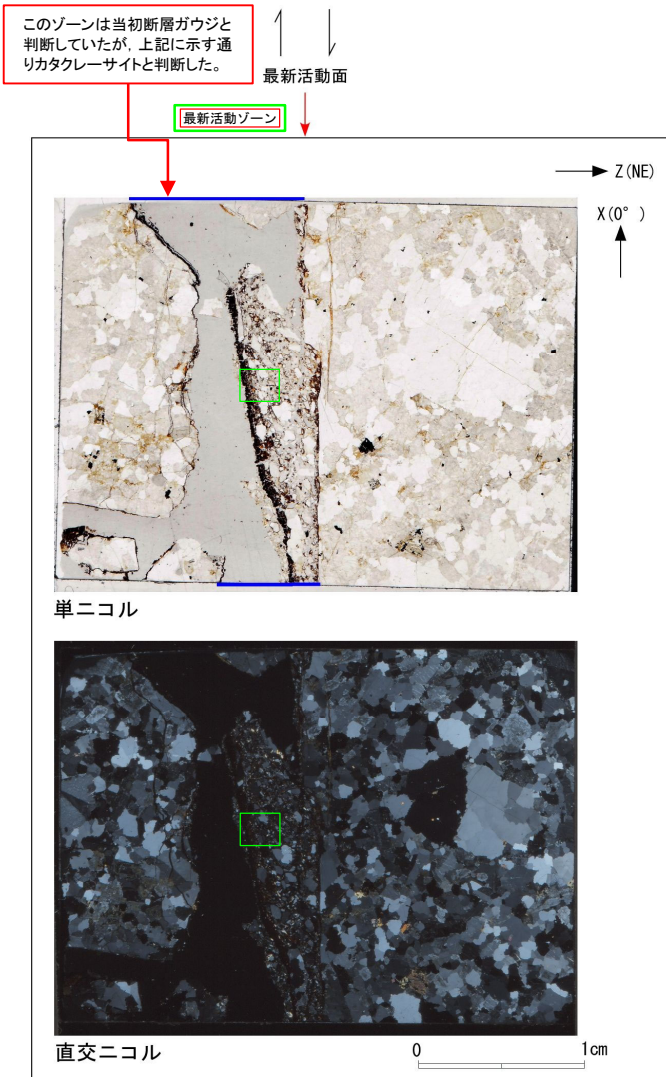
500 μm

500 μm

- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト

## H27-B-2 深度48.08~48.12m 非モデル化破碎部(3/3)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 岩片の粒径は漸移的に変化する。(図3)



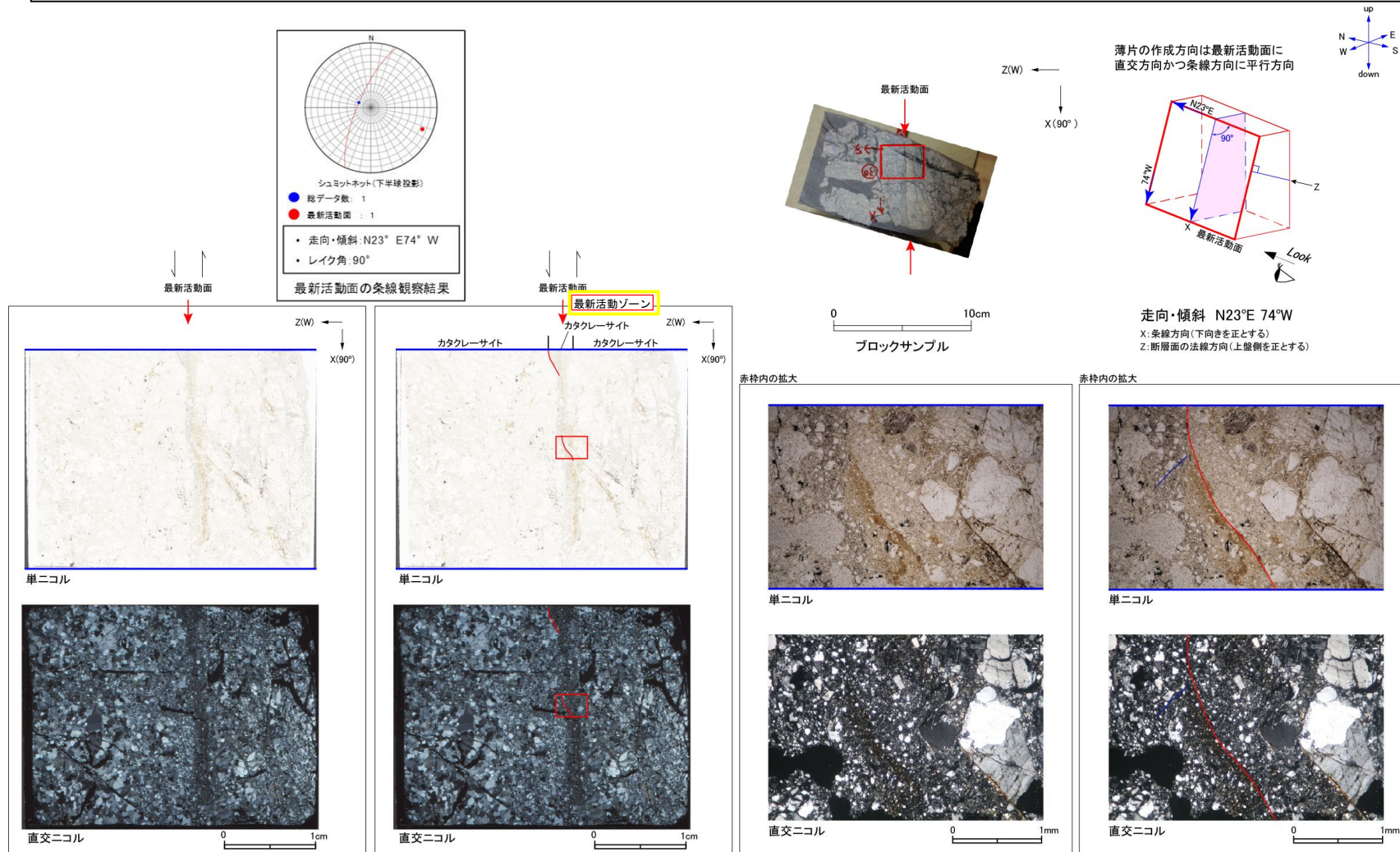
赤矢印 岩片の粒径が漸移的に大きくなる。

赤矢印 岩片の粒径が漸移的に大きくなる。

- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト

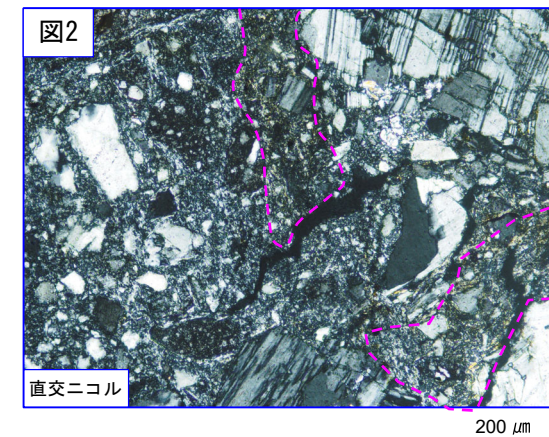
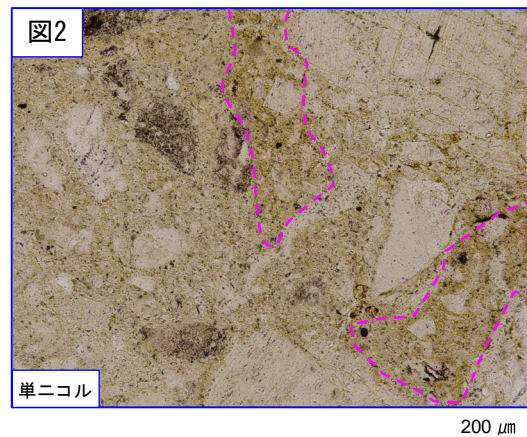
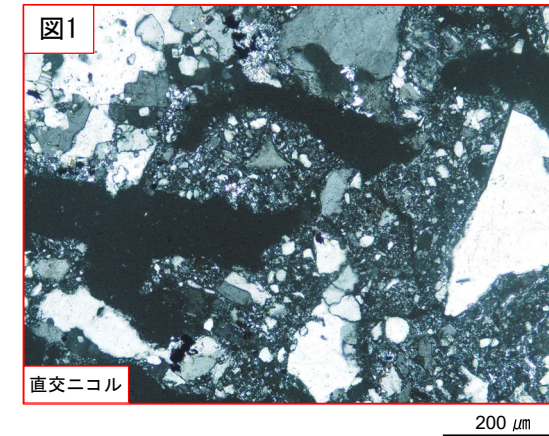
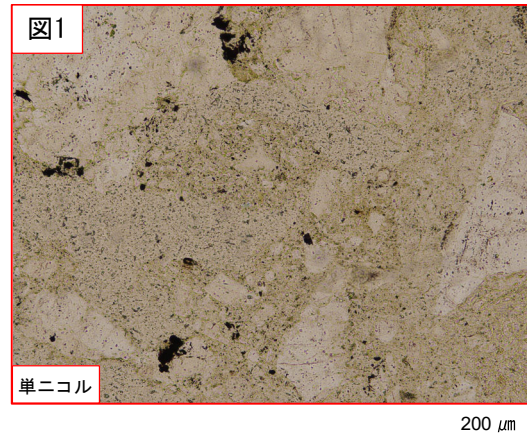
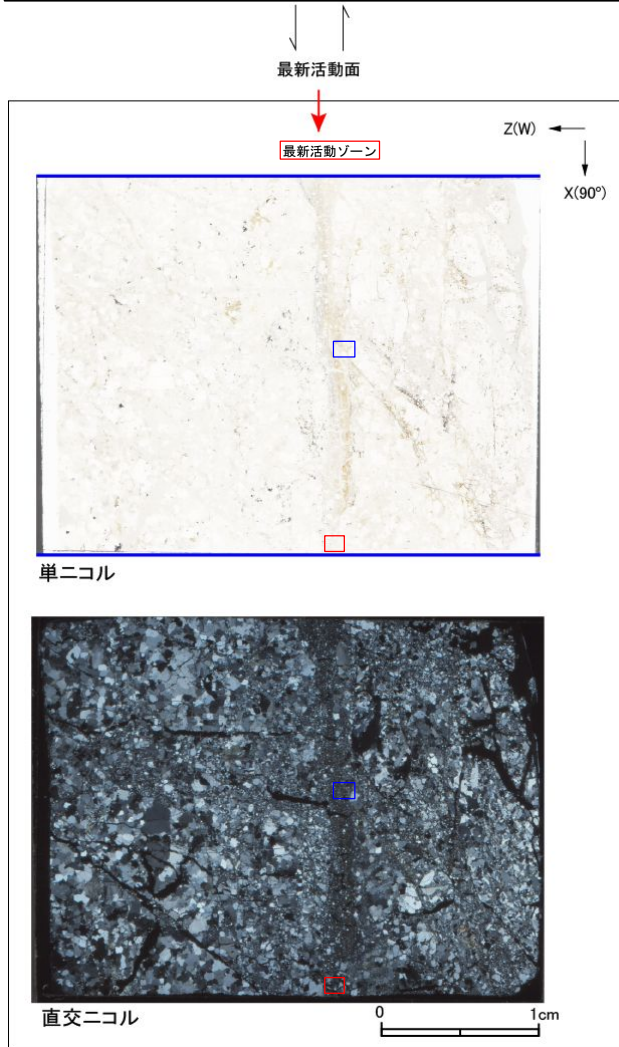
H27-B-2 深度68.02~68.06m 非モデル化破碎部 (1/3)

- ・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度68.05m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図4)



## H27-B-2 深度68.02~68.06m 非モデル化破碎部 (2/3)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1, 2)
  - 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。(図2)
  - 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図1, 2)
  - 角ばった岩片が多い。(図1, 2)

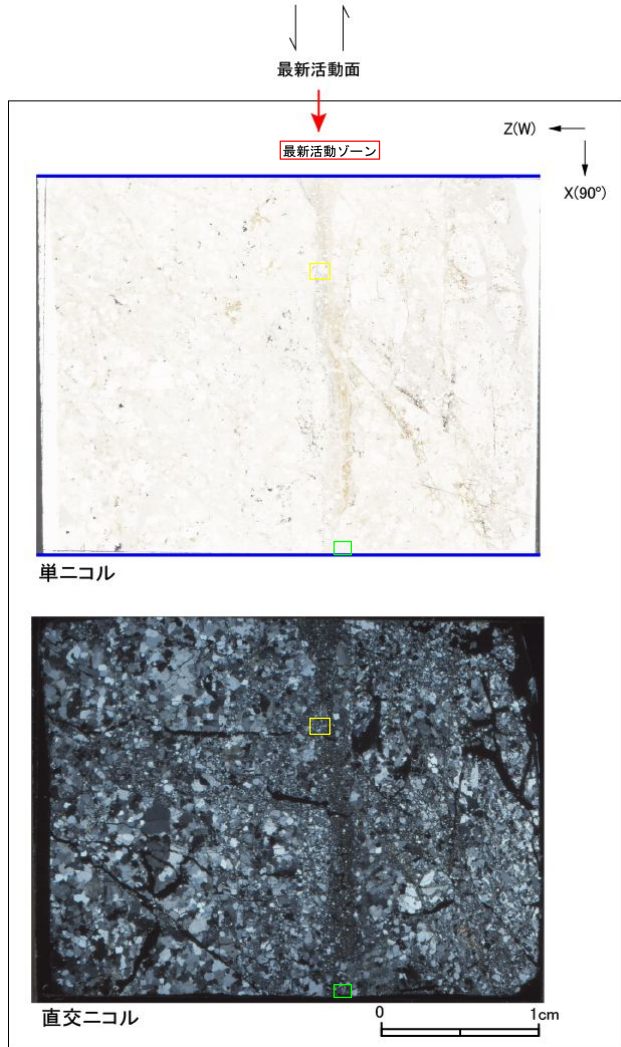


破線は粘土状部の分布範囲を示す。

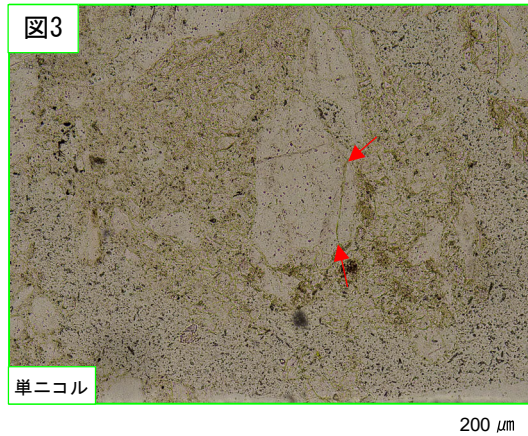
- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト

## H27-B-2 深度68.02~68.06m 非モデル化破碎部 (3/3)

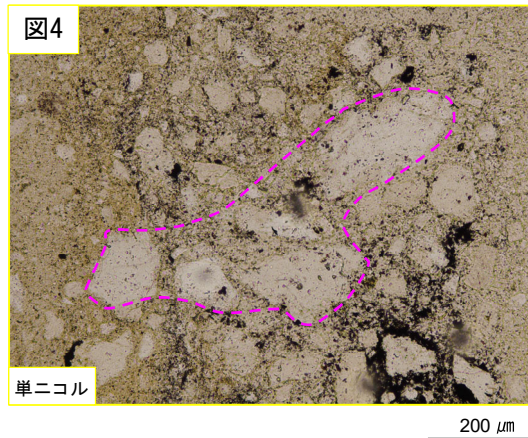
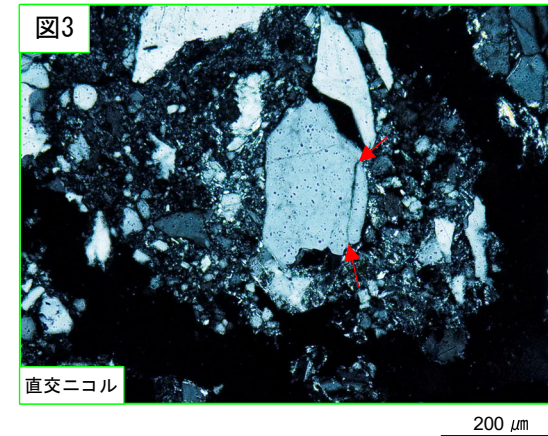
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)
  - ジグソー状の角礫群が認められる。(図4)



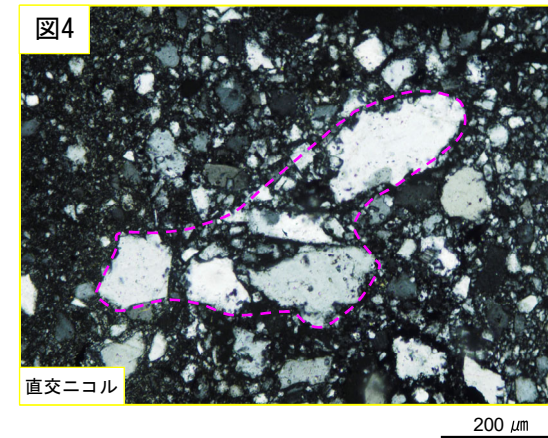
凡例  
 — 断層ガウジ  
 — カタクレーサイト



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。



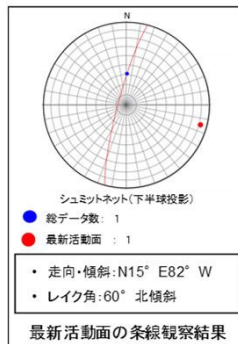
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。



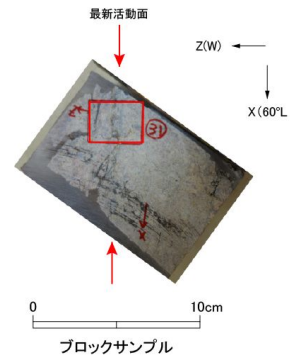
## H27-B-2 深度85.58~85.76m 非モデル化破碎部 (1/3)

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度85.63m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。  
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。

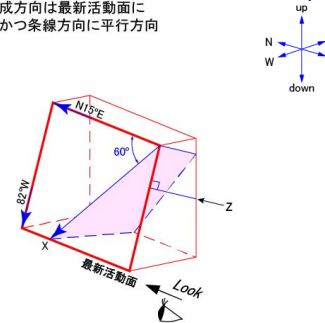
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- ジグソー状の角礫群が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



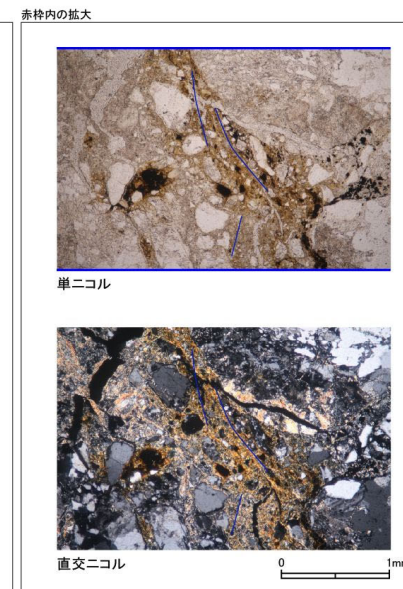
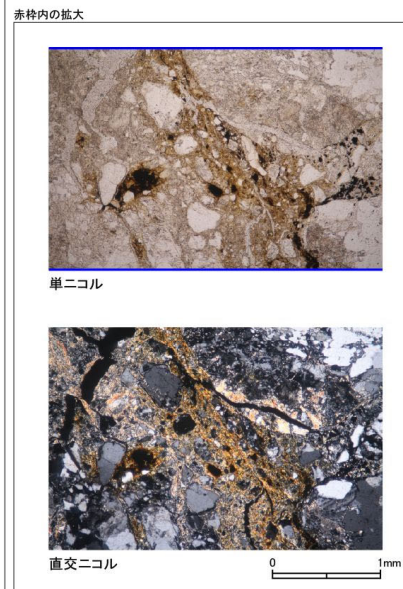
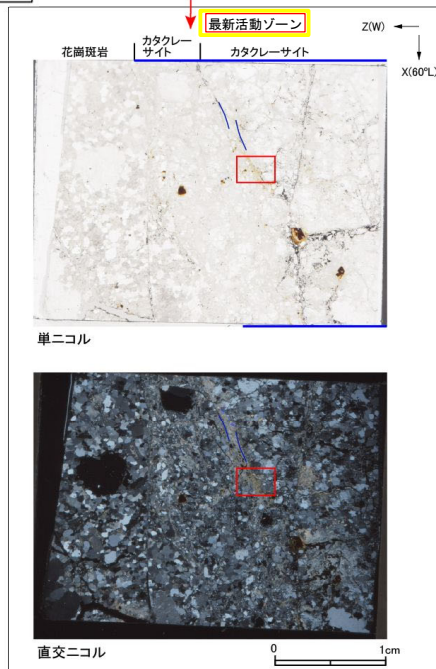
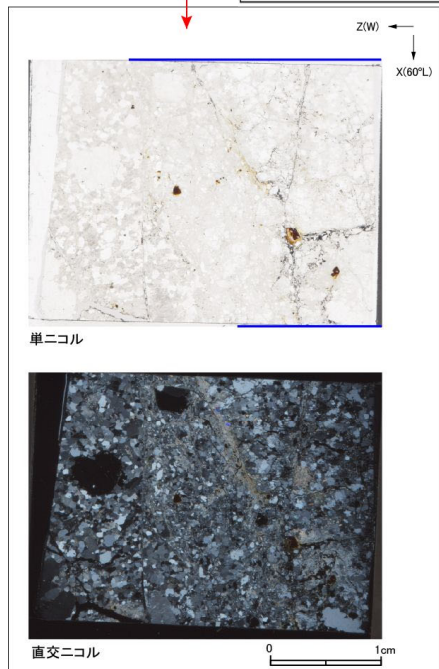
最新活動面の条線観察結果



薄片の作成方向は最新活動面に  
直交方向かつ条線方向に平行方向



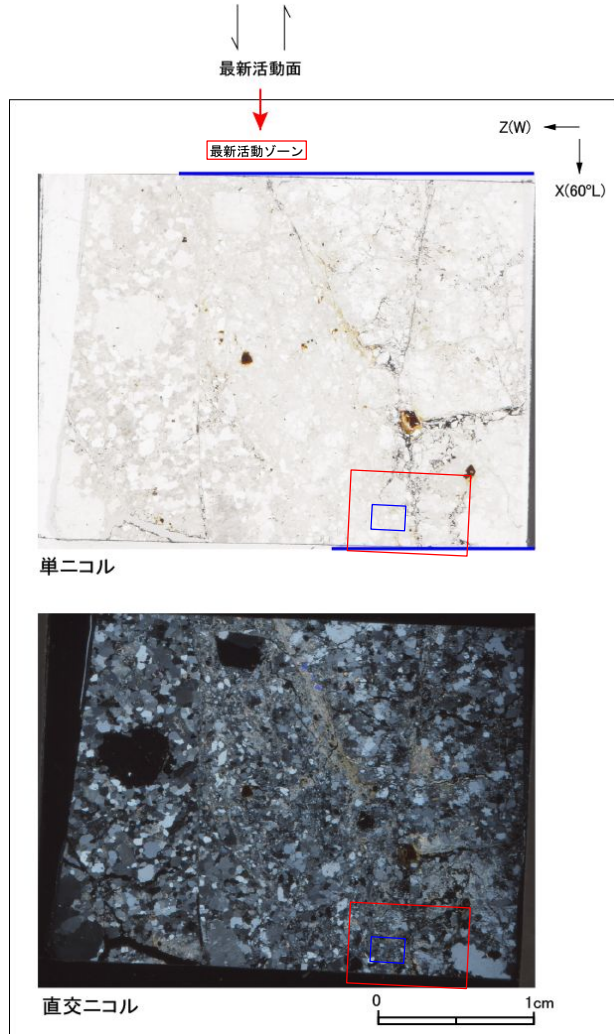
走向・傾斜 N15°E 82°W  
 X: 条線方向(下向きを正とする)  
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



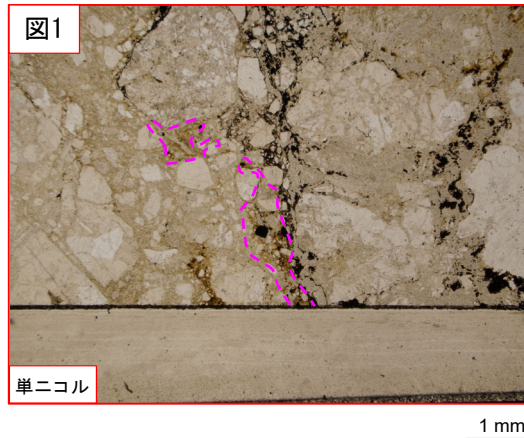
- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

## H27-B-2 深度85.58~85.76m 非モデル化破碎部 (2/3)

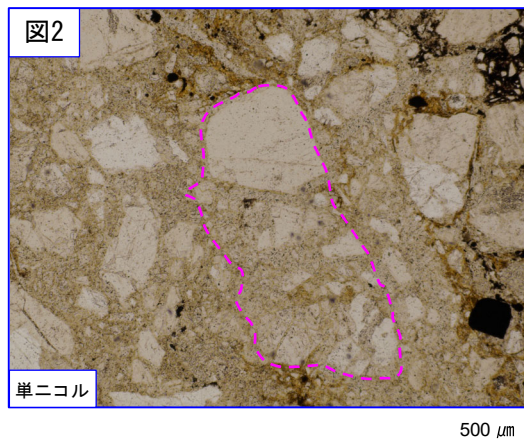
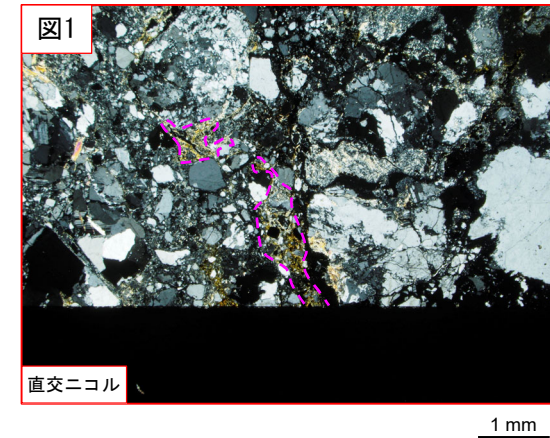
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



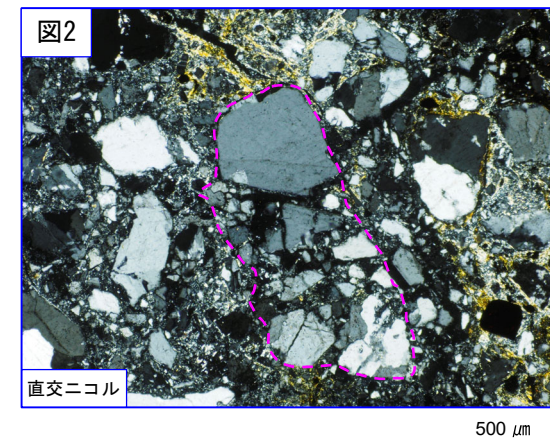
凡例  
 断層ガウジ  
 カタクレーサイト



破線は粘土状部の分布範囲を示す。

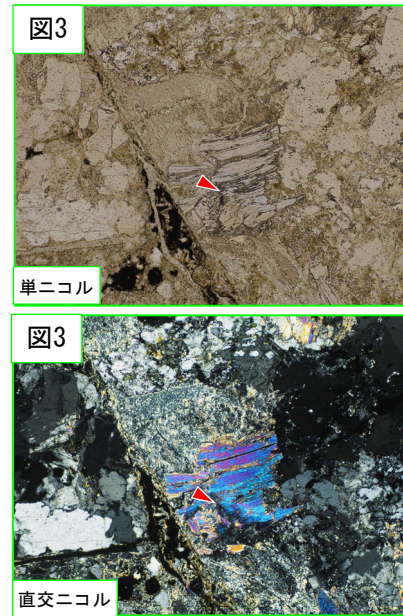
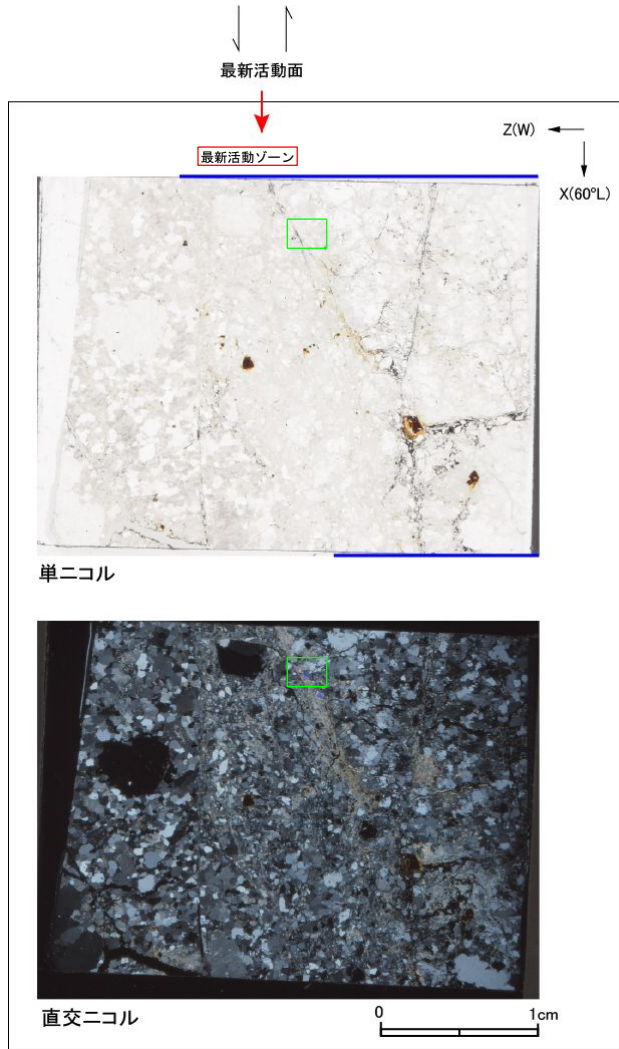


破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。



## H27-B-2 深度85.58~85.76m 非モデル化破碎部 (3/3)

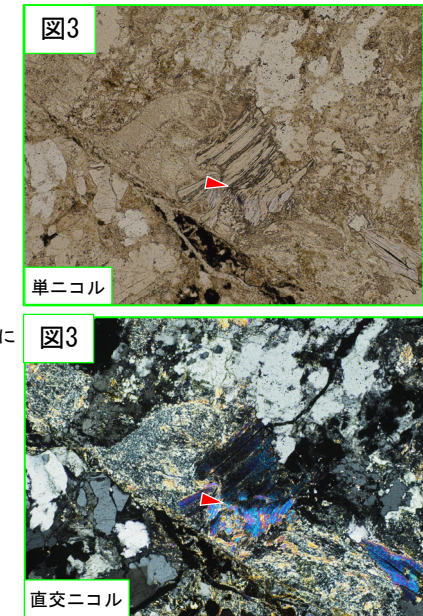
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図3)



赤矢印は屈曲箇所を示す。

→

ステージを反時計回りに  
約25度回転

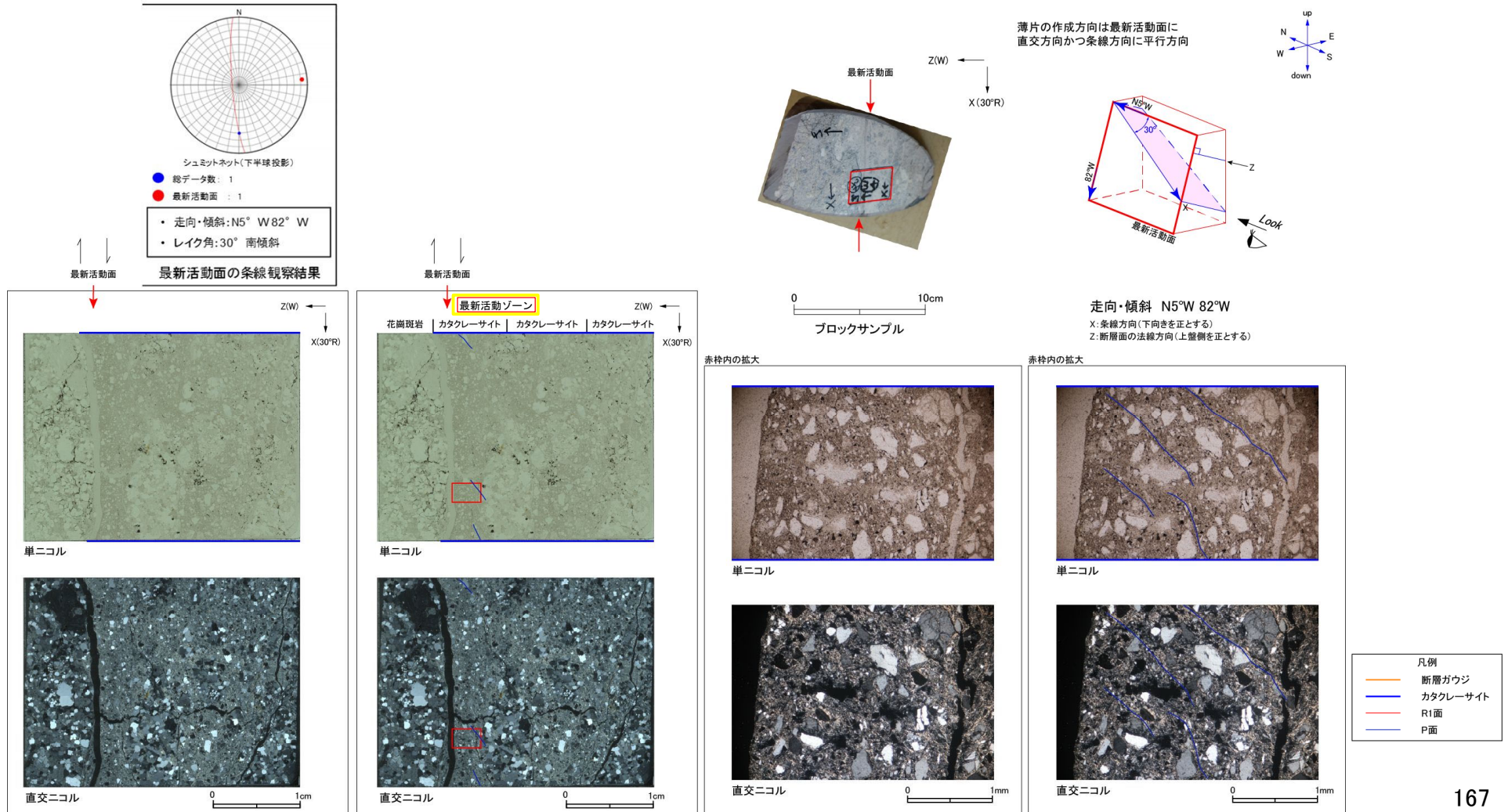


赤矢印は屈曲箇所を示す。



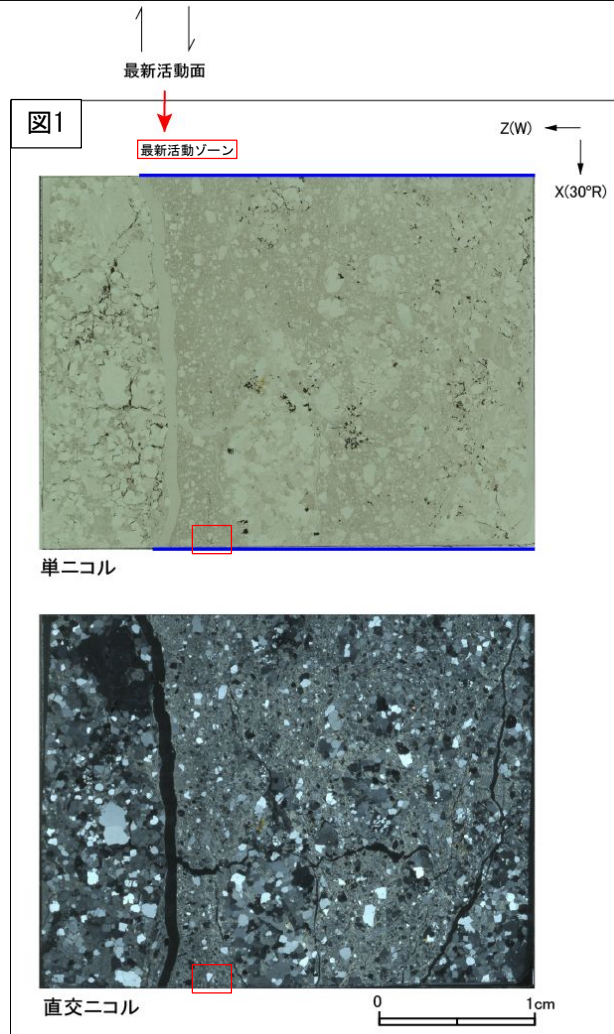
# H27-B-2 深度91.69~91.76m 非モデル化破碎部 (1/2)

- ・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度91.70m)の変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 組織は漸移的に変化する。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- ジグソー状の角礫群が認められる。

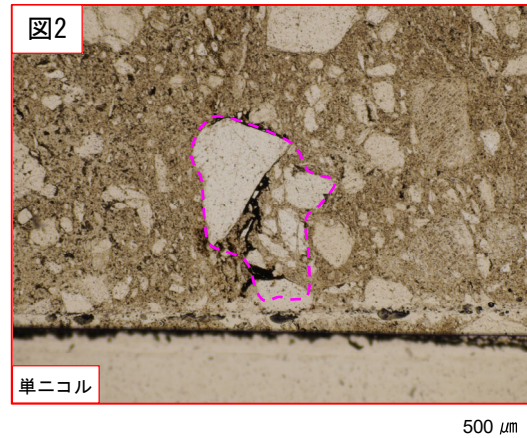


## H27-B-2 深度91.69~91.76m 非モデル化破碎部 (2/2)

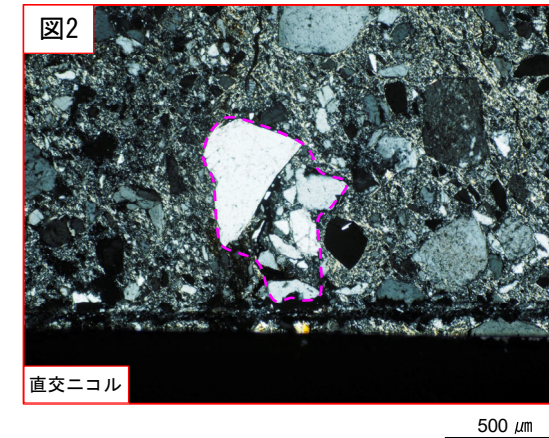
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図2)
  - 組織は漸移的に変化する。(図1)
  - 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
  - 角ばった岩片が多い。(図2)
  - ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



凡例  
— 断層ガウジ  
— カタクレーサイト



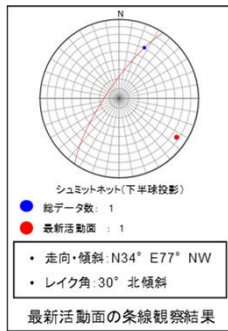
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。



# H27-B-2 深度120.63~120.65m 非モデル化破砕部 (1/3)

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度120.65m)の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。  
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

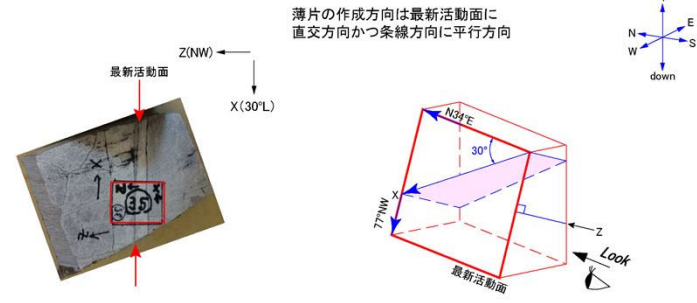
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 粘土鉱物は漸移的に変化する。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- シグソー状の角礫群が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



↑ ↓  
最新活動面

↑ ↓  
最新活動面

最新活動面の条線観察結果



0 10cm

ブロックサンプル  
※切断面に記載されているX方向は誤り

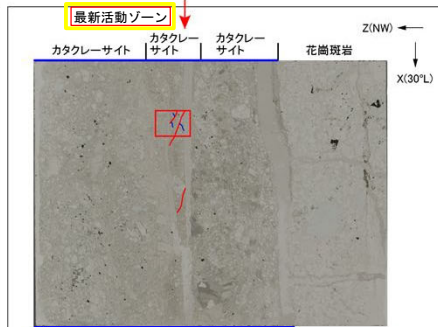
走向・傾斜 N34°E 77°NW  
 X: 条線方向(下向きを正とする)  
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



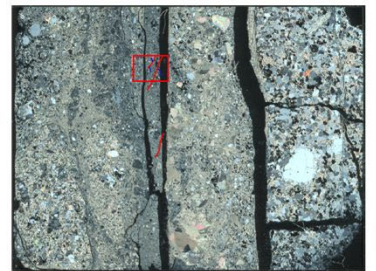
単ニコル



直交ニコル

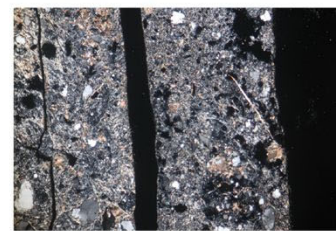


単ニコル

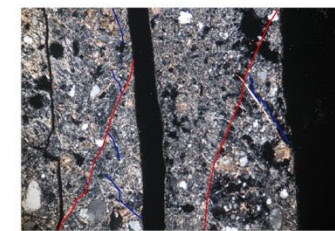
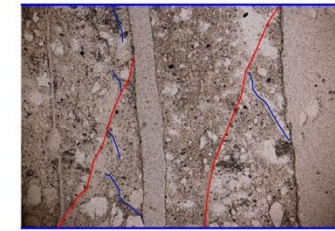


直交ニコル

赤枠内の拡大



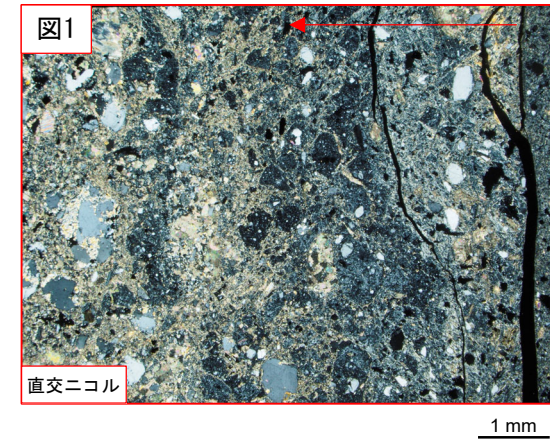
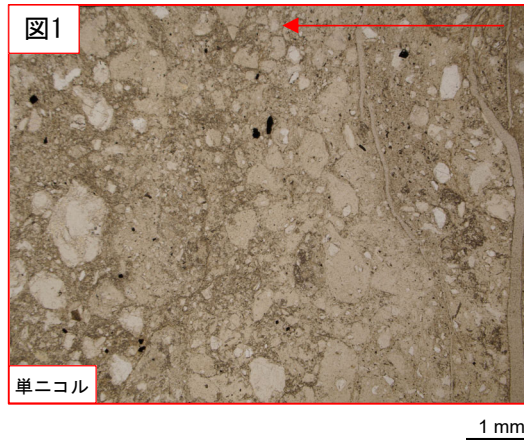
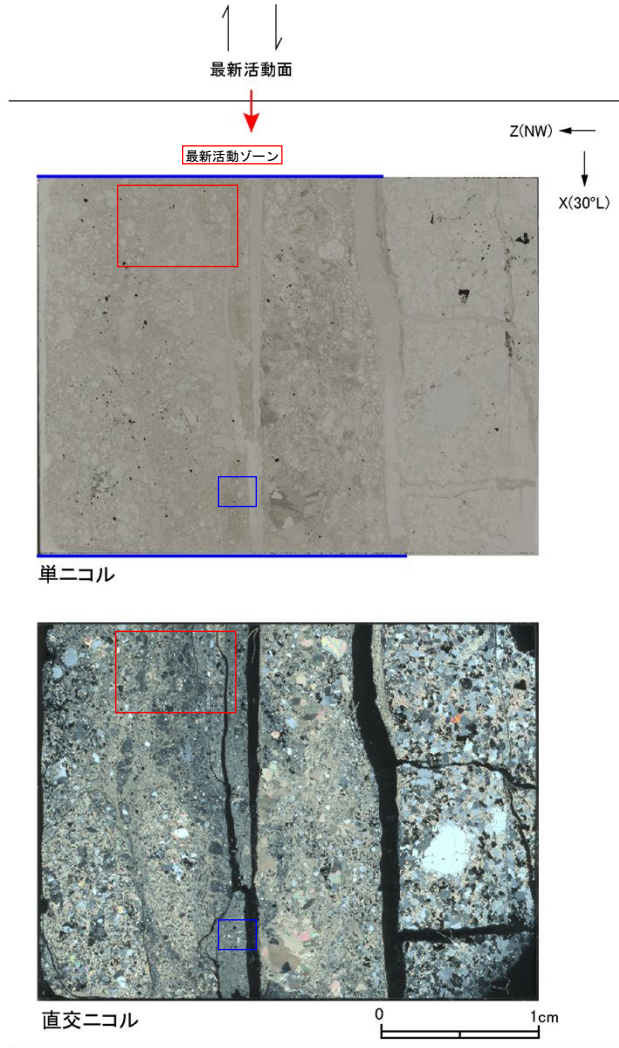
赤枠内の拡大



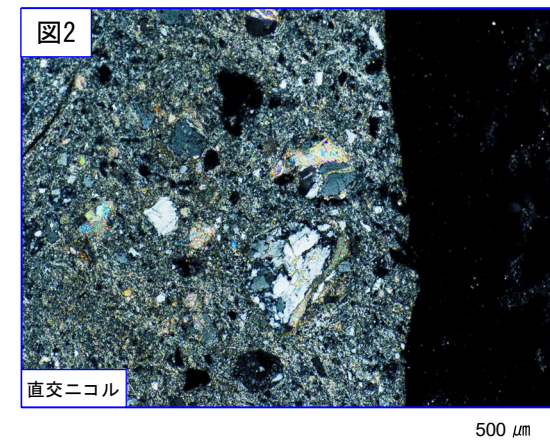
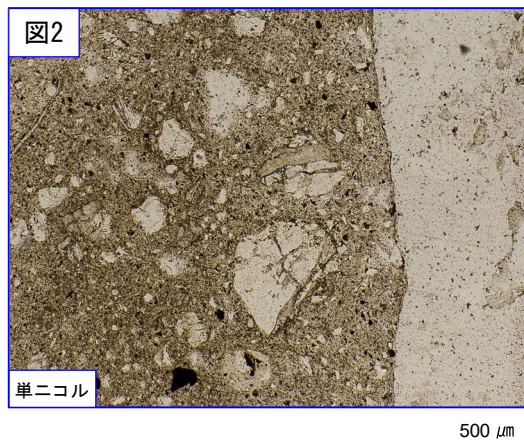
- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

## H27-B-2 深度120.63~120.65m 非モデル化破碎部 (2/3)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 粘土鉱物は漸移的に変化する。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)



赤矢印: 粘土鉱物が漸移的に減少する。



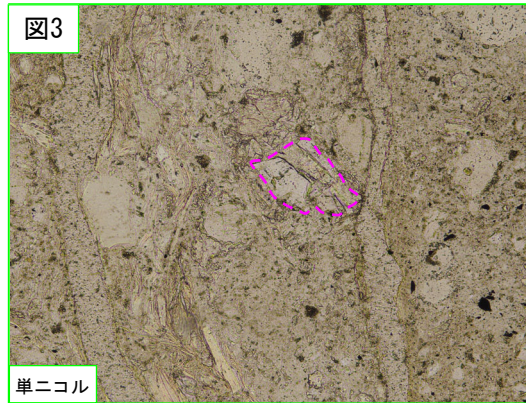
凡例  
 — 断層ガウジ  
 — カタクレーサイト

## H27-B-2 深度120.63~120.65m 非モデル化破碎部 (3/3)

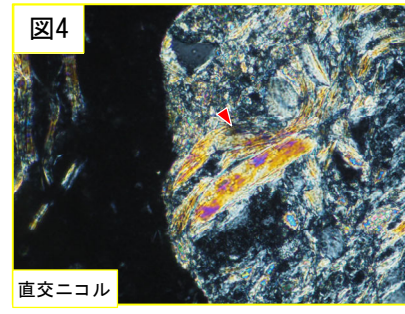
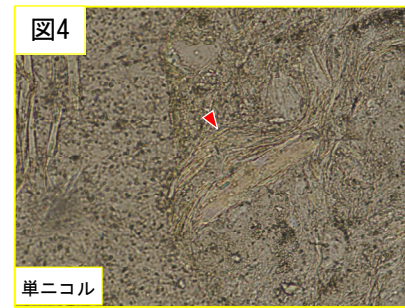
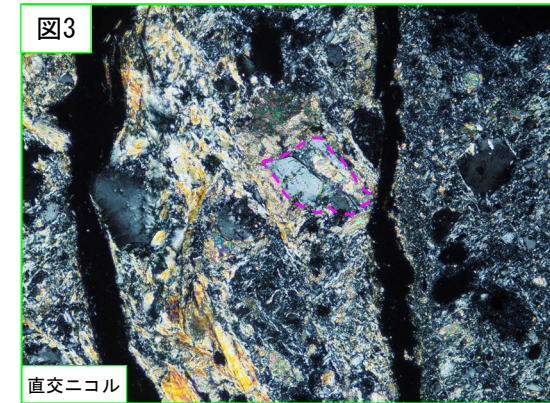
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)



凡例  
 — 断層ガウジ  
 — カタクレーサイト



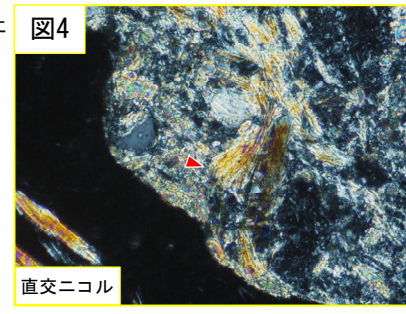
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。 200 μm



赤矢印は屈曲箇所を示す。 50 μm



ステージを反時計回りに約45度回転







赤矢印は屈曲箇所を示す。 50 μm

## H24-B14-2孔で確認された破砕部 (1/2)

- H24-B14-2孔で確認された破砕部について、薄片観察による断層岩区分を実施した。
- 薄片観察の結果、破砕部の性状に変更はない。
- H24-B14-2孔には、K断層に類似するような、断層ガウジを伴う逆断層センス卓越の破砕部は認められない。





### H24-B14-2孔で確認された破砕部 (1/2)

破砕部 番号	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・ 断層角礫 の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の 幅 (cm)	最新活動面		条線 方向	変位センス		破砕帯名	写 真		
	上端深度 (m)	下端深度 (m)						明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平				
①	28.50	28.66	N35E	77NW	※1	有	0.1	有	非平滑	50R	正	左	f-b14-2-1	28		29
②	38.10	38.27	N58E	88S		有	フィルム状	有	非平滑	57L	正	右	f-b14-2-2	38		39
③	47.37	47.40	N38E	85NW		無	-	-	-	40R	逆	右	非モデル化	47		48
④	49.24	49.55	N44E	80E		有	2.5	有	非平滑	75L	正	-	D-44	49		50

※1: 破砕幅は破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。  
※2: 断層ガウジ・断層角礫の幅は肉眼観察に基づく。

  : 薄片観察結果に基づき  
判断した箇所

  : 第833回審査会合までに実施した追加観察結果、データの追加  
(断層岩区分においては肉眼観察に基づく評価から見直した箇所)

凡 例	
 : 最新活動面	 : 破砕幅
 : 断層ガウジ	 : 断層角礫
カラーバーが付いていない区間はカタクレーサイトを示す	

- : データが得られていないもの。  
明瞭なせん断構造・変形構造については、断層ガウジ・断層角礫を伴わないもの。  
平滑さについては、断層ガウジ・断層角礫を伴わないもの又は明瞭なせん断構造・変形構造が無しのもの。

「非モデル化」とは、近傍ボーリングに連続しないと判断された破砕部を示す。

H24-B14-2孔で確認された破砕部 (2/2)

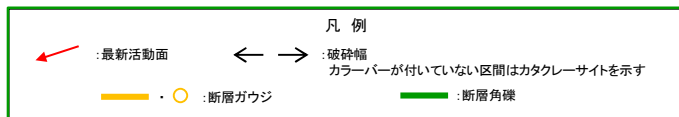
H24-B14-2孔で確認された破砕部 (2/2)

破砕部 番号	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・ 断層角礫 の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の 幅 (cm)	最新活動面		条線 方向	変位センス		破砕帯名	写 真
	上端深度 (m)	下端深度 (m)						明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平		
⑤	60.85	61.12	N1E	83E	※1 19.7	無	※2 -	-	-	72R	-	-	D-42	60 61 62
⑥	101.47	101.52	N3E	65E	4.5	無	-	-	-	20R	-	右	f-b14-2-6	101 102
⑦	105.54	105.61	N16E	84E	4.9	無	-	-	-	12L	-	-	D-41	105 106
⑧	109.16	109.46	N1W	76W	7.8	有	2.2	有	平滑	-	正	右	D-1	109 110

※1: 破砕幅は破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。  
※2: 断層ガウジ・断層角礫の幅は肉眼観察に基づく。

  : 薄片観察結果に基づき  
判断した箇所

  : 第833回審査会合までに実施した追加観察結果, データの追加  
(断層岩区分においては肉眼観察に基づく評価から見直した箇所)



- : データが得られていないもの。  
明瞭なせん断構造・変形構造については、断層ガウジ・断層角礫を伴わないもの。  
平滑さについては、断層ガウジ・断層角礫を伴わないもの又は明瞭なせん断構造・変形構造が無しのもの。

「非モデル化」とは、近傍ボーリングに連続しないと判断された破砕部を示す。

## H24-D1-3孔で確認された破砕部

- H24-D1-3孔で確認された破砕部について、薄片観察による断層岩区分を実施した。
- 薄片観察の結果、破砕部の性状に変更はない。
- H24-D1-3孔には、K断層に類似するような、断層ガウジを伴う逆断層センス卓越の破砕部は認められない。

H24-D1-3孔で確認された破砕部

破砕部 番号	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・ 断層角礫の 有無	断層ガウジ・ 断層角礫の 幅 (cm)	最新活動面 明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ	条線 方向	変位センス		破砕帯名	写 真
	上端深度 (m)	下端深度 (m)									鉛直	水平		
①	13.94	14.06	N26E	77W	※1 6.0	有	※2 1.0	有	非平滑	15L	-	左	H-3d	13 14 15
②	14.41	14.52	N31E	66NW	5.5	有	1.9	有	非平滑	20L	-	右	H-4'	14 15
③	34.23	34.52	N12W	89W	16.6	有	0.8	有	平滑	75L	正	-	D-1	34 35
④	52.13	52.28	N7E	70W	9.6	有	0.5	無	-	0	-	右	非モデル化	52 53
⑤	56.88	57.24	N2E	89W	17.5	有	0.5	有	非平滑	50L	正	右	D-35	56 57 58

：薄片観察結果に基づき  
判断した箇所

※1: 破砕幅は破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。  
※2: 断層ガウジ・断層角礫の幅は肉眼観察に基づく。

凡 例	
	: 最新活動面
	: 破砕幅 カラーバーが付いていない区間はカタクレーサイトを示す
	: 断層ガウジ
	: 断層角礫

- : データが得られていないもの。  
明瞭なせん断構造・変形構造については、断層ガウジ・断層角礫を伴わないもの。  
平滑さについては、断層ガウジ・断層角礫を伴わないもの又は明瞭なせん断構造・変形構造が無しのもの。

「非モデル化」とは、近傍ボーリングに連続しないと判断された破砕部を示す。